

Brown Bag Seminar

ブラウンバッグセミナー

録画期間限定公開
オンライン (Zoom)

2021.9.22

(水)



【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

登録はこちら

日 ← 同時通訳 → 英

12:10 ~ 12:50

- 12:10-12:15 ◆ 演者紹介
- 12:15-12:40 ◆ プレゼン
- 12:40-12:50 ◆ 質疑応答

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_MhRVFYQsQmeC1c6OZtgoZw

脱炭素社会に向けたゼロ・エネルギー建築の研究開発

司会：Scott Valentine 教授 (Q-AOS 研究推進ディレクター)

日本では2020年10月、菅内閣総理大臣が「2050年カーボンニュートラル」を宣言しており、脱炭素社会の実現へ向けた様々なアプローチを急加速しています。具体的には、2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロを目指し、中間目標として2030年までに2013年比で46%の二酸化炭素排出量の削減を設定しています。日本の部門別のCO2排出量は、多い順に産業部門(35%)、住宅・建築部門(32%)、運輸部門(19%)となり、住宅・建築部門にも高い削減目標が課せられています(なお、住宅・建築部門のCO2排出は、主に空調・給湯・照明などの建物のエネルギー消費に由来することから建築由来と称されます)。CO2削減量を一次エネルギーに換算すると、日本全体の削減計画(石油5,030万kL)の内、住宅・建築部門には47%(石油2,387万kL)もの削減が求められています。建築由来のエネルギー消費総量が石油4,950万kLであることを考えると、この削減量(建築由来の48%)は非常に大きな目標であることがわかります。環境設計技術(建物性能の向上、再生可能エネルギー利用、設備機器効率の改善など)を導入するにしても、今から2030年までの10年弱の間に、生活環境(健康性・快適性・利便性など)に直接関係する建築由来のエネルギー消費量を、現状から半減することは極めて野心的な目標と言えます。本セミナーでは、グリーン社会の実現を目指して、建築由来のエネルギー削減に向けたゼロ・エネルギー・ビルディングの取組みについて発表します。



尾崎 明仁 教授

九州大学 人間環境学研究院

尾崎教授は、1990年に九州大学大学院総合理工学研究科熱エネルギーシステム工学専攻博士後期課程を修了し、当時から一貫して建築の住環境や省・創・蓄・配エネルギーに関する研究を行っています。特に、建築物理(熱・物質移動現象)に基づいた快適性・健康性・耐久性・省エネルギー性の解析(建築環境設計)を専門としています。1998年より、Natural Resources Canada(カナダ天然資源省)の主任研究員として、グリーン・ビルディングの研究開発に携わり、その成果により、2000年にエネルギー局賞、2001年にカナダ天然資源省功績賞を受賞しました。2001年より、北九州市立大学の准教授に就任し、その後は、産官学が連携した先進建築技術に関わる実務的な研究も行っています。非定常理論に基づいて開発した建築熱環境シミュレーションソフト「THERB」は、国土交通省から「住宅の品質確保の促進等に関する法律」で使用される特別評価ソフトとして認定され、建築設計ツールとして大学、研究機関、建設企業において研究開発と設計実務の双方で広く使用されています。その後、2006年京都府立大学の教授に就任、2014年九州大学の教授に就任し現在に至っています。

